

2022. 8. 1

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

- 植物モニタリング活動 8/8、8/15、9/5、9/12、9/19 9:00 ため池公園スタート
- 赤塚公園ニリンソウを守る会 8月=お休み 9月例会=9/11 10:00 大門観察台
★いずれも、飛び入り参加歓迎! 雨天は小雨でも中止
<問合せ: 赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

熱中症警戒アラート「危険」! 10分間限定でカナムグラの抜き取り作業



7/18に続いて、8/1のモニタリングでも簡単な草取り作業を行いました。環境省の熱中症予防サイトは9:00の時点で「危険」を示していたので、10分間限定で行いました。場所は、赤塚城址の西北の外れの平坦部。カナムグラが全体を覆って茂っていたので手で抜き取りました。抜き取った草は写真のように遊歩道脇に通行の邪魔にならないように置いておきましたが、後日サービスセンターが片づけます。抜き取った痕が荒地のようになっていますが、一週間もすれば少しすっきりした草原になるはずです。

ボランティア団体や地域のみなさまの協力もあって

板橋区立郷土資料館裏の遊歩道は3年前はムカゴイラクサ、昨年はヤブミョウガが繁茂して他の野草が隠れてしまっていたのですが、ボランティア団体「みどりの手」のみなさんの力もあって、背丈の高い草や茂りすぎた草の刈り取りを続けてきたところ、春にはニリンソウとヤマブキソウがつながって咲くようになり、7月のはじめには見事にヤマユリが咲きました。このヤマユリ、たくさん咲いた花が重くて、地上に倒れ掛かっていたのをどなたかが支えをつくってくれていました。ありがたいこと。



8/1には、林のふもとでキツネノカミソリがきれいに咲いていました↑

全滅・排除しないのが生物多様性保全の考え方

草取りと言っても、対象の草を全滅・完全排除しないのが、ここでのやり方です。7/18に八丁目の林のフェンス際で茂っていたクサギは生え過ぎで人や車の通行の邪魔になっているので「ご遠慮」いただきました。8/1のカナムグラは、地表を覆ってしまって他の植物の生育を妨げるので「適度に」ご遠慮いただいたわけです。



難しいのは外来植物です。例えば、夏にはアメリカオニアザミがあちこちに咲いています。葉には鋭い棘があって触ると飛び上がるほどに痛いのですが、

赤塚の道端ではもう何十年も前から咲いていて、とりわけ他の植物を押しつけて生きている気配はありません。生物多様性保全エリアに侵入してきたら考えものになる

のですが、今のところその気配もなしなので、あえて抜き取りを行っていません。上の左が花で、アザミを素朴にしたような感じ。キク科ですから花後は穂綿が付きますが、それが飛んだあとの枯れた総苞（写真右）も見応えがあるものです。

左上写真の背景でピントがぼけているのはヤブガラシの花ですが、黄色に見えるこの花の痕は蜜の受け皿になっていて、そこに昆虫がいっぱい寄ってきます。「藪を枯らす」植物として嫌われ者なのですが、この草で一面が覆われでもしない限り、やっぱり存在している価値があるというものです。

よく見れば、夏の花があちこちに・・・



左上、7月前半に花盛りだったウバユリは中に種子を身ごもった実の状態。代わりに甘い香りを漂わせているクサギが満開（左下）。



フェンスに絡んでいるのはヘクソカズラ（右上）。香りが良ければもっと歓迎されるのにねえ。



樹木に絡んで高いところで咲いているのはセンニンソウ（右中）。目線の高さにはオニドコロ（右下）。



熱中症の危険増大に+

コロナ感染爆発的拡大！

みなさま、気を付けてお過ごしください